

保護者の方と共に開催してきた「なつまつり」は、今年もコロナウイルス感染症拡大防止のため子どもたちのみの行事に変更しました。

子どもたちとするなら「子どもの思いと力が発揮される会にしたい」と、行事の運営を年長・空組にお願いしました。

空組の子どもたちは、小さい子もみんなが楽しめるお祭りにしたいと準備を進めました。好きなものをリサーチに行き、年下の子たちが喜んでくれる姿を想像しながら品物を考え、コッコツと作り上げていきました。「うさぎ組さん（1歳児）はこれだと難しいかもね」と、使うものを年齢に合わせて変えたりもしました。



「緊急事態宣言」の発令で開催直前に発令された「緊急事態宣言」に中止を考えた。空組の子どもたちは「お祭りやったら元気が出るのに」「小さい子たちも楽しみにしとったかもしれん」と残念そう。子どもたちと話し合い、8月に延期することに。「楽しみはとつたら、もつと楽しくなるよ！」とやり遂げたい思いが強くなっていました。



子どもたちは、小さい子に寄り添い、「どれがいい?」「持つとつてあげようか?」と声をかけながら、見守っていました。和太鼓演奏も披露し、お祭りを盛り上げてくれました。

「保育園で一番大きい空組さんじゃけえ!」と年長としての誇りを持ち、「みんなのために」と力を発揮し、やりきった子どもたちに、私たちも力をもらいました。子どもたちには、自分の力を信じ、自分の事を誇らしく思い、自分のことも友だちのことも大切にできる心を持ってほしいと願っています。



「保育園で一番大きい空組さんじゃけえ!」と年長としての誇りを持ち、「みんなのために」と力を発揮し、やりきった子どもたちに、私たちも力をもらいました。子どもたちには、自分の力を信じ、自分の事を誇らしく思い、自分のことも友だちのことも大切にできる心を持ってほしいと願っています。

第83号

2021年12月
(発行)
広島修道院友の会だより
「わかくさ」編集委員会

広島修道院友の会だより わかくさ

「卒院生からの恩返し」 バスケットボールが繋ぐ社会

広島修道院院長 山村拓哉

世の中は新型コロナウイルスの話ばかりで、この夏休みも「コロナ」と「大雨」で子ども達にとって2度目の「ガマンの夏休み」となりました。しかし子どもとは明るい未来に向かって進んでいくものです。こんな時代ですが振り返ってみる時に、少しでも楽しい思い出を作っているものと信じます。



この春、修道院のグラウンドの東側、桜の木の傍に、バスケットゴールが建ちました。これは子ども達の希望を受け、復建調査設計株式会社様から支援をいただき実現したものです。

「卒院生からの恩返し」バスケットボールが繋ぐ社会。世の中は新型コロナウイルスの話ばかりで、この夏休みも「コロナ」と「大雨」で子ども達にとって2度目の「ガマンの夏休み」となりました。しかし子どもとは明るい未来に向かって進んでいくものです。こんな時代ですが振り返ってみる時に、少しでも楽しい思い出を作っているものと信じます。

友の会活動報告

七五三の着付け
友の会では理事が、創立記念日のお茶会、とうかさ(ゆかた)七五三で子ども達に着物の着付けをしています。子ども達は普段と違う綺麗な着物を着て、少し緊張しながらもとても嬉しそうです。コロナ禍で行事が減っている中、今年も七五三の可愛い着のお手伝いが出来ました。



寄付のお礼
今年も新型コロナウイルスの流行により数名の方から子ども達のために友の会に寄付していただきました。子ども達の教育・進学など有効に使わせていただきたいと思います。ありがとうございます。

●広島修道院のホームページにはさまざまな情報が掲載されていますので、どうぞご覧ください

では、どうして子ども達のバスケットボール熱が高まり、ゴールを建てる事を願うようになったのか?というところをお話させていただきます。

今から3年前、卒院生(修道院を退所した方への呼称)のKさんが子ども達をプロバスケットチームのドラゴンフライズの試合に招待してくれました。

Kさんは私が入職した30年前、小学生だった方です。彼は運動神経抜群でユーモアに富み、年上の児童からも一目置かれるリーダー的な少年でした。更には非常にわんぱくで、なかなか元気のあり過ぎるガキ大将でもあり

広島ドラゴンフライズ
@HIROSHIMADFLIES

【#バスケットつながる風景 プロジェクト】
共心株式会社様、ブックオフコーポレーション株式会社様と共同で広島修道院にアウトドア用バスケットボールを寄贈させていただきました。3月にバスケットゴールを新設された広島修道院でたくさんの子ども達にバスケットを楽しんでいただきたいと思っております!

広島ドラゴンフライズ
Twitter
記事より抜粋

ボールはドラゴンフライズさんとのコラボでKさんの会社名も入ったオリジナルです。贈呈式には、Kさんと浦社長もお越し下さいました。子ども達に「しっかりと使って早くポロポロにして欲しい」と言われました。Kさんはよく「恩返し」という言葉を使います。

また、子ども達がバスケットボールを楽しめる環境作りにご支援いただいた復建調査設計株式会社様、ブックオフコーポレーション株式会社様、広島ドラゴンフライズ様、共心株式会社様に心より感謝申し上げます。

入会申込書

広島修道院友の会の趣旨に賛同して入会致します。

〒

〈住所〉
フリガナ
〈氏名〉
〈電話〉
〈入会〉 令和 年 月 日
〈取扱者〉

〈年会費〉
普通会員……………2,000円
特別会員(法人会員を含む)……………10,000円

〒732-0047
広島市東区尾長西2丁目8番1号
広島修道院友の会事務局
TEL(082)261-1356
FAX(082)263-3017
E-mail:goshin-kahou@shudo.or.jp
URL:http://shudo.or.jp/
郵便振替:01390-9-22875

感染症防止につとめながら 可愛らしい笑顔こぼれて

🌸 畑と花壇作り

新型コロナウイルス感染症防止対策として、他の部屋の子どもとの接触をできる限り避ける為、2m以上の距離を保ちフェンスで庭を区切る工事が昨年行われました。

防止対策の為規制も多く、院庭も狭くなり他の部屋との交流も少なくなっていました。そのような状況の中でも、何かできないかと思案の間、フェンスとフェンスの間、2mという短いようで広い面積を使い小さな畑と花壇を作りました。

🌸 春が来た♪

待ち遠しかった春が来て一斉に緑が生い茂り、その後たくさんの花が咲きました。子ども達が目をキラキラさせて興味津々の顔つきになってきました。可愛いチューリップが咲くと、みんなチューリップの歌が上手に歌えるようになるほど、毎日花を見ながら歌を歌い過ごしました。



🌸 やりた放題！
花壇を作り始めて数か月、花を大切に育てたい気持ちも

ありましたが、子ども達にも近くで触れ合っただけの気持ちも勝って、思い切った子ども達が遊ぶ場所に植木鉢を出してみました。



🌸 綺麗に咲きました

最初の日は、みんな一目散に走ってスコップを取りに行き、植木鉢の中を耕し始めました。これには驚きました。大人の真似なのか、耕し、植えていく作業が、水やりや、肥料をあげる事よりも印象的だったとは。まさか耕すなんて。想像していた子ども達の姿とは違いましたがとても新鮮で、観察力に感動しました。花には申し訳ないなと思いつつ、少しの間我慢してもらい飽きるまで耕してもらいました。



🌸 お水をどうぞ!!

🌸 お世話って楽しい

1か月、2か月経つと子ども達は花や植物に自然と優しく接する事ができるようになりました。子ども達にも水やりをお願いしてみると小さなじょうろを小さな両手で大切にそうに持ち、水を一生懸命に運ぶ可愛らしい姿が見られました。真剣な顔つきで運び、柔らかな表情で水やりをする姿はこちらまで癒されます。花も、もうお腹一杯になっている頃だと思いつつ、その表情見たさに何度もお願ひしてしまう事もしばしば...



🌸 トマトも採れたよ!

🌸 いざ収穫

初夏を迎え、小さなブルーベリーの木に小さな実がたくさん付きました。最初は目の前に出しても食べていいものなのか、悩む子もいましたが、一口食べるとおいしかったのか、ニコッと笑い、収穫しても毎回アツという間になくなっていきます。



🌸 大きいきゅうり~!

朝、院庭に駆けつけていき、ホースを子ども同士で協力して引張りだし、花に向けて「じゃー」と大人がしているような水やりの真似をする子もいます。お世話をする使命感に燃えている子ども達は生き生きとしていて、目がキラキラと輝いています。

子ども達には大人気です。「いちごいちご」と採る前から盛り上がりがあります。夏野菜、秋野菜もどんどん大きくなってきます。キュウリが実り一口サイズに切つて渡すと「きゅうり」と言いながら、普段の食事では残す子もおいしそうに食べてくれました。

🌸 癒しの中で

子ども達と競争するかのようになり、遅く大きくなっていく野菜。可愛らしい花を咲かせてくれる植物。こぼれ種で意外な場所から顔を出している花。ニコニコ笑顔で触れ合っている子ども達に今日も癒され元気をもらっています。この空間が、仕切られてしまつて圧迫感のある場所から、癒される素敵な空間になっていくように、今後も努力したいと思っています。

きずなの家

相談しましょ、そうしましょ！ 〜みのりの部屋の取り組み〜

🌱 話し合いの文化を育てる

きずなの家では、立ち上げ当初から施設の中に、話し合いの文化を育てることを目指して取り組んでいます。

🌱 「みのり会」

みのりの部屋は、男子7名(小学生3名、中学生1名、高校生3名)の部屋です。「みのり会」と名付けた話し合いを、きずな立ち上げから不定期ながら続けてきて、話し合う内容は、子どもからの意見(嫌だった事や相談したい事)が主でした。

子ども達の年齢差があり生活時間が違うので、全員が揃う事が難しい時は、「小学生会」「中高生会」として、その時に集まれる子どもと職員で話し合いをしていました。しかし、みのり会を実施する事の大切さは分かっています。その時の忙しさに流されて毎月実施する事が出来ていませんでした。

🌱 取り組み

話し合いのテーマを、「やりたいこと」「困りごと」「わかれあい」の三つのテーマとし、話し合う日の数日前からリビングにボードを用意しておきます。子どもも大人も三つのテーマに沿って話し合いたいことを自由に書いていきます。話し合いでは、書かれている意見を一つひとつ取り上げて、話し合っていくというものです。

🌱 子どもの意見

○ 困りごと

「小学生同士の言い合いがうるさいので止めて欲しい」「部屋が汚い」や中には「A君のおならが出すぎて困る」など、みんなの笑いを誘うような意見もあります。○ やりたいこと
子ども達みんながそれぞれ意見を書いていることが多く、



「旅行に行きたい」「釣りがしたい」等、やりたい事がたくさん出てきます。今はコロナ禍の外出自粛で実現することが少なく残念ですが、院外活動を考える材料となっています。

○ わかれあいたいこと

中学生からあまり意見が挙がりませんが、小学生から「僕イケメン」や「彼女が欲しい」など、みんなが笑顔になる事がたくさん挙げられています。

職員からは「B君が中学二年間、部活動を最後まで頑張りました」等、子どもの頑張りを紹介して、みんなですれを共有できるようにしています。他にも、「スマホの使い方について」や「寒くなってきたので冬布団を出します」等の話もあります。

🌱 「みのり会」の目標

笑いのある暖かい雰囲気、誰もが意見を言い合えるような楽しい会にすることです。小学生の面白い意見を見るとしめしめと思いつつ、「みのり会」を盛り上げる努力をしています。

小規模グループでは、良くも悪くも子どもも大人も相互の関係性が密になります。一緒に生活する者同士が、それぞれ良いところも悪いところも受け入れて折り合う力が必要です。これからも話し合い、分かち合いながらその力を育てていきたいと思います。



里親研修の様子



お知らせ フォスタリング業務を始めました

今年度、広島乳児院は広島市児童相談所からフォスタリング業務(里親養育包括支援)の一部を事業委託されました。事業内容は、研修事業、訪問支援、相互交流事業です。

研修事業では、里親希望者に対して里親研修(講習・施設実習)を年に3回実施します。

他に、養育中の里親に対して、養育技術の向上のためスキルアップ研修を行います。

訪問支援事業では、新規に委託された家庭を対象に家庭訪問や電話相談を行い里親養育がうまくいくように支援します。相互交流事業は、里親サロンの実施です。里親サロンでは、里親ならではの悩みや日々の養育を語り合うことによって、ピア・サポート(仲間同士の支え合い)を目的としています。

職員体制は統括責任者1名、フォスタリング業務専門員1名、フォスタリング業務支援員6名です。職員一同、里親支援の充実に向けて関係機関と協働し力を合わせてがんばっていきますので、よろしくをお願いします。

＜関心のある方はご連絡ください。連絡先：082-261-1356 フォスタリング担当まで＞



広島市公式ホームページより